令和６年８月９日

JOGMEC カレント・トピックス
独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構

石炭の価格推移と需給動向（2024 年 7 月）

石炭開発部企画課　大竹正巳

価格推移（直近１か月）

【高品位一般炭 CIF 欧州価格】電力需要低迷によりスポット取引が限定され 102～106$/トンでのレンジ相場が続いた後、火力発電需要増加やコロンビア炭供給ひっ迫懸念もあり 120$/トン台に高騰。

【高品位一般炭 FOB 豪州価格】アジア市場での冷房向け電力消費量の高まりにより石炭火力の需要が増加したことで、7 月初旬の 129.95$/トンから小幅に値上がりし 135$/トン台に上昇。

【強粘結炭 FOB 豪州価格】QLD 州 Grosvenor 炭鉱の操業停止を受け 7 月初旬に 259.6$/トンに急騰するも、継続する需要低迷や潤沢な在庫水準により下落が続き 220$/トンを下回る。

需給動向

- インドネシアの 6 月の石炭輸出量は前年同月比+14.4%の 4,465 万となり、6 月としては過去最高を記録した。最大の輸出先である中国向けは前月からほぼ横ばいの 1,887 万トン。
- 中国の 6 月の原炭生産量は前年同月比+3.6%の 4 億 538 万トンとなり、今年初めて前年同月を上回った。一般炭輸入量は、前年同月比+11.5%、前月比+2.3%の 3,348 万トンと堅調に推移している。
- 日本の 6 月の一般炭輸入量は 676 万トン。冷房用電力需要増加のため前月を 10.9%上回るも、前年同月比では 6.9%減少し、6 月としては過去 10 年間で最低となった。
- インドの一般炭輸入量は 1 月から増加傾向が続き、5 月は前月比+13.9%の 1,974 万トン。7 月の石炭火力発電量は 105.8TWh でモンスーン期に入り減少するも、平年を上回る水準の発電量を維持。
- EU の 5 月の一般炭輸入量は前年同月比▲49.3%の 211 万トン。EU 域内での電力需要が低迷する一方で、再エネ発電が堅調であることを背景に火力発電が抑制され、一般炭輸入量は大幅に減少した。
- 世界の 6 月の粗鋼生産量は前年同月比+0.5%の 1 億 6,140 万トン。このうち中国は前年同月比+0.2%の 9,161 万トン、それに次ぐインドは同+6.0%の 1,230 万トンで高い水準を維持している。
- 日本の 6 月の粗鋼生産量は前年同月比▲4.2%の 700 万トンとなり、4 か月連続で前年同月割れ。原料炭輸入量は前年同月比▲23.0%の 413 万トンで、過去 10 年間の同月比で最低水準となる。
- 中国の主要鉄鋼メーカーによる 7 月の平均粗鋼日産量は前年同月比▲5.4%、前月比▲5.1%の 209 万トンに減少。5 月下旬から下落基調の国内鋼材価格は、2020 年前半と同水準まで低下している。

一般炭の価格推移

一般炭価格は、2022 年前半にはロシアへの制裁国（EU 諸国、日本等）がロシアからの石炭輸入を停止することによる他ソースへの代替需要の発生、及び欧州における天然ガス代替としての石炭需要の増加により、極端な高値に急騰した。2022 年 9 月になると、制裁に参加しない主要石炭輸入国（中国、インド、トルコ等）が、国際市況から大幅にディスカウントされたロシア炭を積極的に輸入し、それらの国々が従来輸入していた南アフリカ、コロンビア、米国等の一般炭が欧州に供給される「再バランス化」が進展したことにより、これまでの極端なタイト感が薄れて一般炭価格は低下傾向となった。

➢高品位一般炭 CIF 欧州

欧州の一般炭需要は、2021 年～2022 年に天然ガスの供給ひっ迫により増加したが（2022 年 3 月～8 月に 400$/トン超)、2023 年から再び減少に転じている。過去一年間（2023 年 4 月～）の高品位一般炭の CIF 欧州価格は、ロシア石炭企業の制裁対象への追加、中東情勢の緊迫化、2024 年 3 月米国 Baltimore 港の橋崩落等により変動はあるが、概ね 100～120＄/トンの範囲で推移した。

直近 1 か月の価格推移を見ると、7 月上～中旬は EU 域内の電力需要の低迷とそれに伴う燃料価格の低下を背景に石炭スポット取引は限定され、概ね 102～106$/トンのレンジで小幅な値動きが続いた後、7 月下旬～8 月初旬にかけては平年を上回る高気温で火力発電の需要が増えたことや、コロンビアでの石炭輸送鉄道の封鎖により供給ひっ迫懸念が生じたこと等から、6 月初旬以来の 120$/トンを超える高値に上昇した。

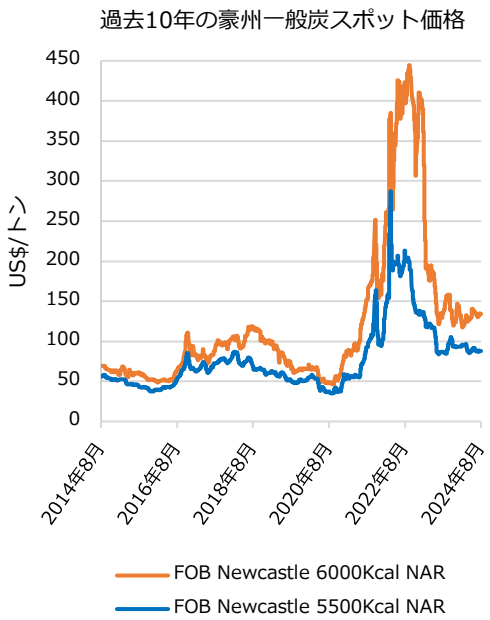
➢高品位一般炭 FOB 豪州

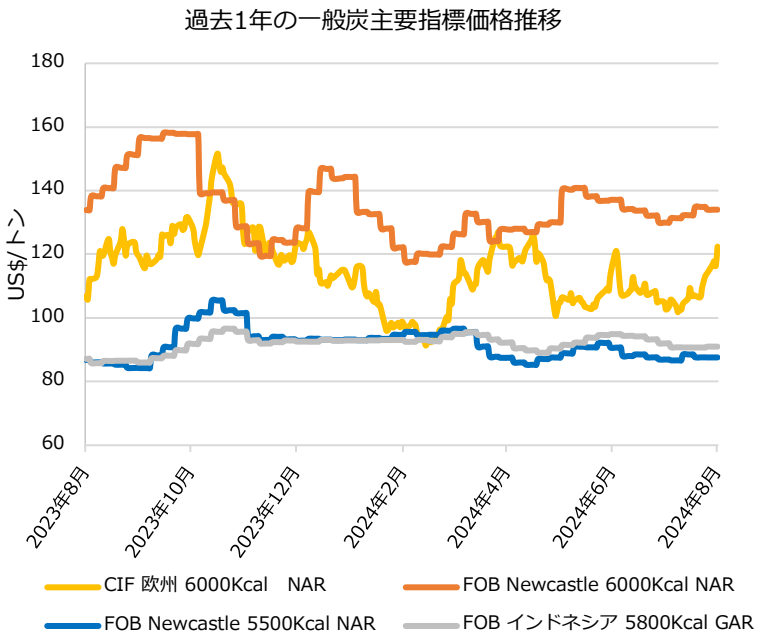
豪州産高品位炭価格は、CIF 欧州価格の高騰から 2 か月遅れの 2022 年 5 月～10 月にかけ一時 400$/トンを超えたが（最高値：2022 年 9 月 9 日の 444.59$/トン)、CIF 欧州価格が下落後も、他の銘柄と比べ大幅に高値の状態が続いていた。その後 2023 年 1 月頃より値下げ基調に入ってからは、夏場の電力需要増や天然ガス価格の上昇による変動はあるものの、CIF 欧州よりも概ね 20～30＄/トン程度割高の 120～150＄/トン台で推移した。

アジア市場の需要低迷により 5 月初旬の 140$/トン台から緩やかな下落基調が続いていた中、アジア市場での冷房向け電力消費量の高まりにより石炭火力の需要が増加したことから、7 月初旬の 129.95$/トンから値上がりし、8 月初旬で 135$/トンに上昇している。Newcastle 港への石炭鉄道輸送が環境活動家によって妨害され供給懸念が広がったことも価格上昇の一因として挙げられるが、一般炭市況への影響は限定的である。

➢低品位一般炭 FOB 豪州

中国の旺盛な需要が下支えしているアジア向け一般炭は、今年 3 月下旬より気温上昇や景気減速等により、中国国内の需給が一時緩和したことでスポット価格が低下したが、5 月に入り夏季の需要期に向けた在庫積み増しの動き始まったことで強含みに転じた。その後、低品位（5,500kcal/kg）炭 FOB 豪州スポット価格は需要低迷を背景に 5 月下旬の 92$/トン台から緩やかな下落基調が続いていたが、7 月上旬に高品位（6,000kcal/kg）炭と同様に小幅ながら上昇に転じ、7 月中旬～8 月初旬にかけては 88$/トン前後の横ばいで推移している。





出所：Argus Media Limited（https://www.argusmedia.com/en）のデータを基に作成

一般炭の需給動向

豪州

・ 世界最大の一般炭生産会社である Glencore 社による 2024 年上半期（1～6 月）の豪州一般炭（非微粘結炭を含む）実績生産量は 2,930 万トンで、前年同期より 8%減少した。欧州及び東アジアでの一般炭の需要低迷や、NSW 州の 2 炭鉱（Liddell 及び Integra）を閉山した影響があるとみられる。2024 年の生産計画（南ア及びコロンビアを含む）は、当初の計画通り 9,800 万～1 億 600 万トンとしている。なお、報道によると、同社は 2023 年 11 月に石炭事業部門のスピンオフ（事業分離）計画を表明したが、株主との協議により当該計画を断念したことが今年 8 月に発表された。

インドネシア

・ インドネシア中央統計庁による 6 月の石炭輸出量は前月より 3.5%減少したが前年同月比+14.4%の 4,465 万となり、6 月としては過去最高を記録し高水準の輸出を維持している。最大の輸出先である中国向けは前月からほぼ横ばいの 1,887 万トン、それに次ぐインドは前月比▲17.8%の 829 万トンに減少した一方で、夏季の電力需要対応のため日本向けが 248 万トン（前月比+42.4%）、韓国向けは 210 万トン（同+11.1%）、台湾向けは 155 万トン（同+32.2%）にそれぞれ増加した。

中国

・ 中国国家統計局によると、6 月の原炭生産量は前年同月比+3.6%の 4 億 538 万トンとなり、今年初めて前年同月を上回った。安全監査強化のため減産していた山西省の生産量は回復しつつあるが、前年同月比▲6.2%（▲約 800 万トン）と前年割れが続いている。その一方で、内モンゴル自治区（前年同月比+10%、+約 1,000 万トン）及び新疆ウイグル自治区（前年同月比+48%、+約 1,400 万トン）で生産量が大きく伸びている。

・ 海関総署が発表した 6 月の一般炭輸入量（褐炭含む）は、前年同月比+11.5%、前月比+2.3%の 3,348 万トン。今年上半期（1～6 月）累計では前年同期比+11.2%の 1 億 8,523 万トンと堅調に推移している。主な輸入先は、インドネシア 1,646 万トン（構成比 49%）、豪州 669 万トン（同 20%）、ロシア 583 万トン（同 17%）、モンゴル 215 万トン（同 6%）、コロンビア 134 万トン（同 4%）。ロシアからの輸入量は輸出関税停止の影響で増加傾向、コロンビアは過去最高を記録した 4 月以降、構成比は 4～5%と低いものの 100 万トン台を維持している。ロシア炭（瀝青炭）の輸入単価は 3 月の 110$/トンから値下がりが続き、6 月は 93$/トン。
・ 6 月の総発電量は前年同月比+2.3%の 768.5TWh と堅調であったが、雨期を迎えた中国南部の大雨によって水力発電量が大幅に増えた影響で、火力発電量は前年同月比▲7.4%の 487TWh に抑制された。

インド

・ インド中央電力庁の発表によると、7 月の総発電量は前年同月比+5.8%、前月比▲2.9%の 157.5TWh。石炭火力発電量は前年同月比+7.8%、前月比▲6.6%の 105.8TWh。モンスーン期に入り総発電量は前月を下回り、石炭火力発電量は水力発電が大幅に（前月比+24.1%）増加した影響で総発電量よりも減少率が大きくなったが、平年を上回る水準の発電量を維持している。
・ Coal India 社による 7 月の石炭生産量は前年同月比+2.4%の 5,500 万トン、石炭出荷量は同+0.2%の 5,960 万トンとなり、いずれも昨年実績を上回ったものの伸び率は縮小している。
・ インド商工省貿易統計による 5 月の一般炭輸入量は前年同月比▲11.3%、前月比+13.9%の 1,974 万トン。前年比では減少したが、依然として高水準の輸入量が続いている。内訳を見ると、熱波による冷房需要の高まりから電力向けが前年同月比+47.4%の 688 万トンと大幅に増加し、その他産業向けは同▲26.9%の 1,287 万トンに減少した。
・ 7 月末時点のインド発電所向け石炭在庫は、前月末から約 92 万トン（約 2%）減少して 4,578 万トンとなった。堅調な国内生産と輸入を背景に 3 月のピーク時（5,070 万）から毎月小幅な減少にとどまっており、4 月以降の在庫維持日数（在庫量÷一日当りの消費量）は 16 日で推移している。

韓国

・ 韓国の貿易統計によると、6 月の一般炭輸入量は、前年同月比▲14.8%、前月比▲13.2%の 586 万トンとなり、前年同月比と前月比ともにマイナスとなった。2022 年 9 月から 2023 年 7 月まで全体輸入量の 30%前後を占めていたロシア炭への依存度が徐々に弱まりつつある中、6 月は 3 月とほぼ同水準の 129 万トン（構成比 22%）に回復した一方で、5 月に 152 万トンに激増したコロンビア炭が 66 万トン（同 11%）、同じく 86 万トンに増えた南ア炭が 30 万トン（同 5%）にとどまった。

日本

・ 財務省貿易統計による 6 月の一般炭輸入量は 676 万トンで、冷房用電力需要増加のため前月を 10.9%上回るも、前年同月比では 6.9%減少し、6 月としては過去 10 年間で最低となった。今年上半期（1～6 月）累計では前年同期比▲7.1%の 4,590 万トン。主な輸入先は、豪州 471 万トン（構成比 69.7%）、インドネシア 85 万トン（同 12.5%）、米国 49 万トン（同 7.2%）、南ア 35 万トン（同 5.2%）、カナダ 32 万トン（同 4.7%）の順となった。
・ 一般炭（瀝青炭）の平均輸入単価は、ピーク時の 2022 年 11 月の 60,400 円/トン(412$/トン)から徐々に低下し、6 月は 24,300 円/トン（155$/トン）。ドル建てでは 2021 年 9 月と同水準まで値下がりした

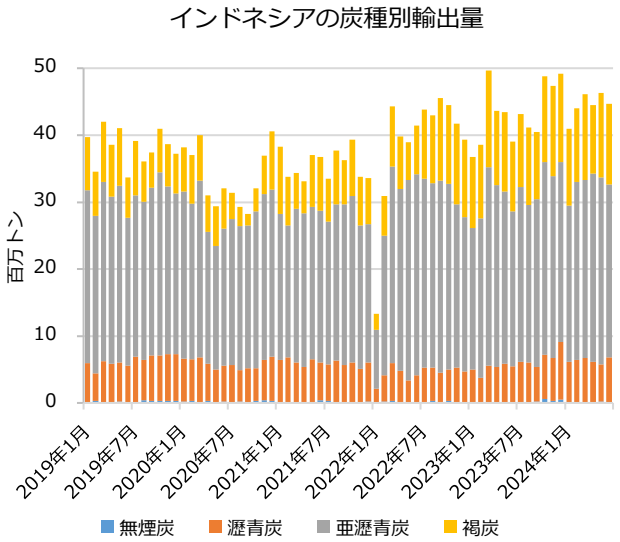
が、為替円安の影響により円換算では約 7,300 円/トン割高となっている。

ＥＵ

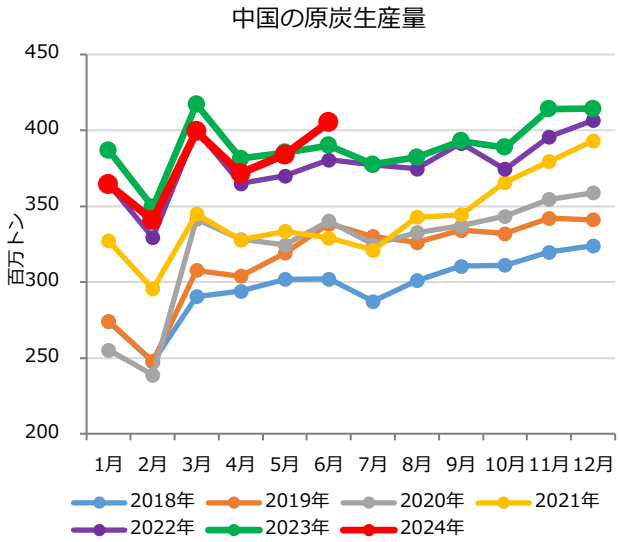
・ 欧州連合統計局によると、5 月の EU 域外からの一般炭輸入量は、域内全体での電力需要が低迷している一方で再エネ発電が堅調であることを背景に、前年同月比で大幅に減少（▲49.3%）して 211 万トンとなった。国別輸入量の構成比は、豪州 32%、コロンビア 15%、米国 14%、カザフスタン 18%、南ア 6%の順。

・ 2022 年 8 月に禁輸となったロシア炭に代わる調達先の分散化が図られている中で、南アからの輸入量は 2022 年後半の 200～250 万トン（構成比 26～35%）をピークに徐々に減少し、2023 年 5 月以降は 100 万トンを下回り、2024 年 4 月及び 5 月は 10 万トン台まで減少している。コロンビアからの輸入量についても同様に、2022 年後半～2023 年初頭の 150～230 万トン（構成比 20～28%）をピークに減少し、2024 年 2 月から 100 万トンを割り込んで、5 月は 30 万トン台に減少している。

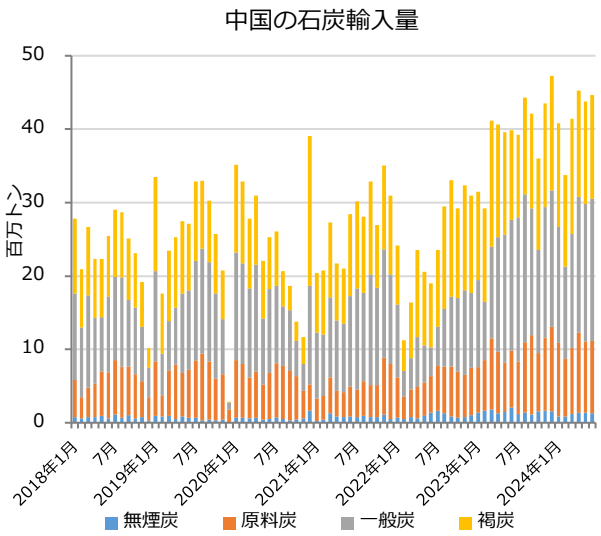
・



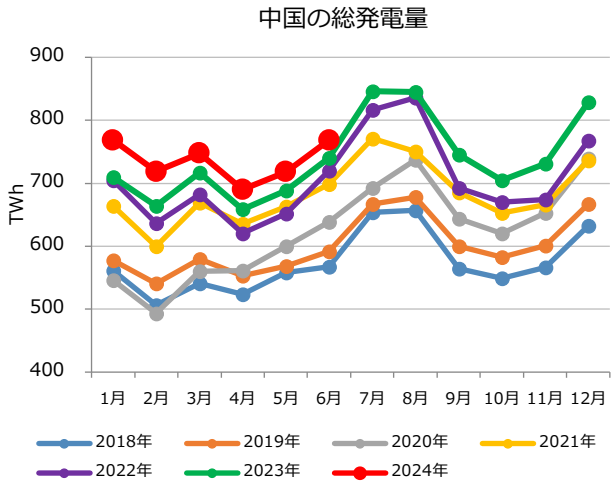
出所：インドネシア貿易統計



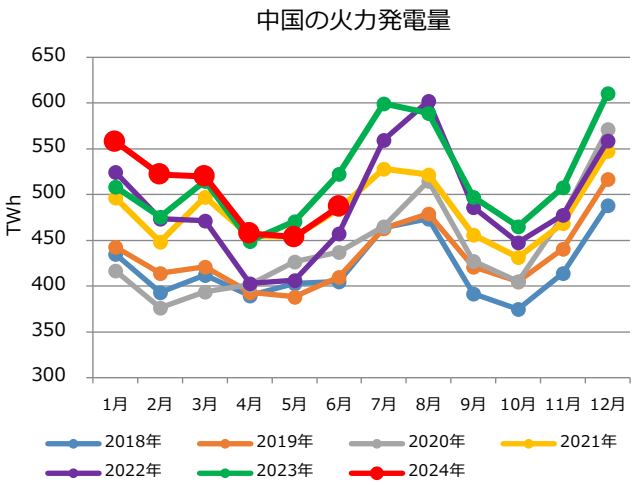
出所：中国国家統計局



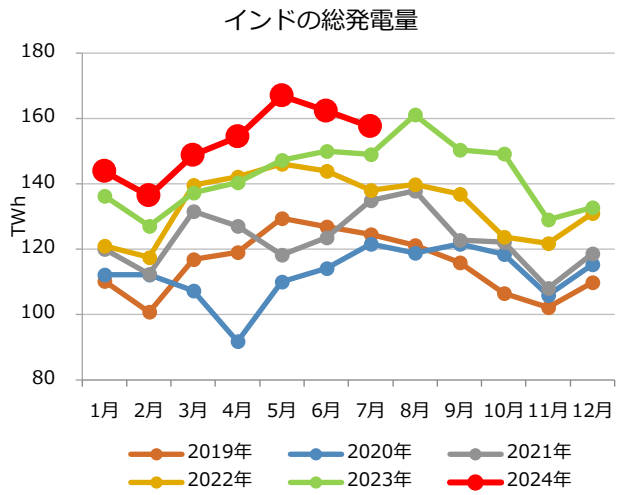
出所：中国海関総署



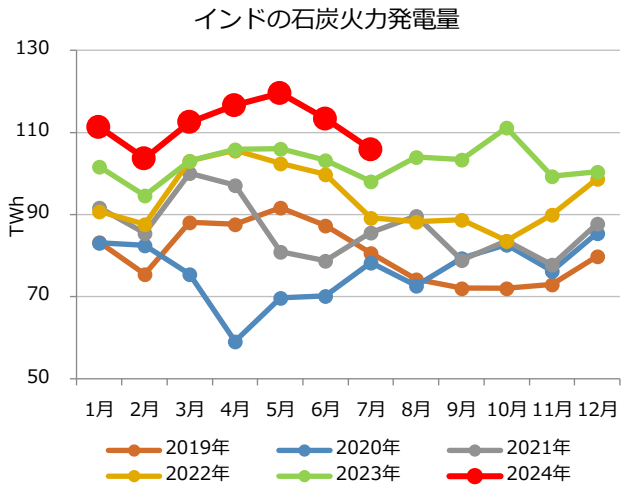
出所：中国国家統計局



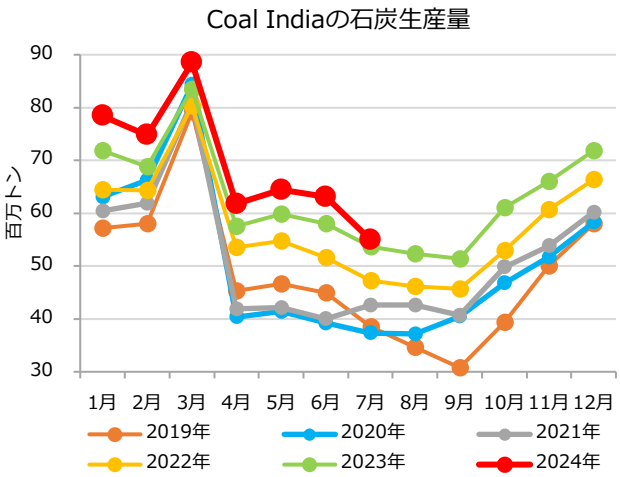
出所：中国国家統計局



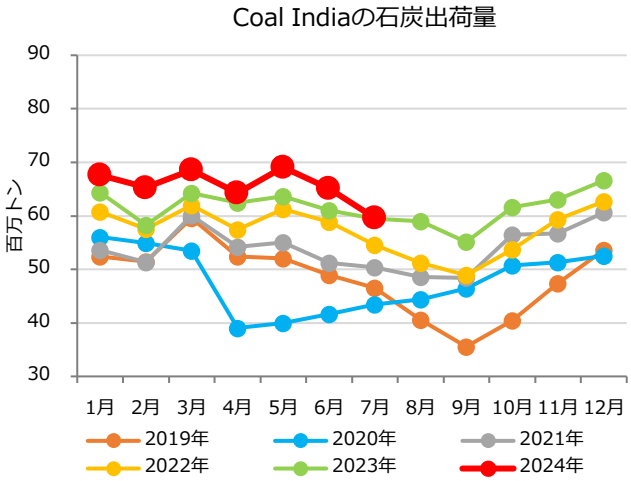
出所：インド中央電力庁



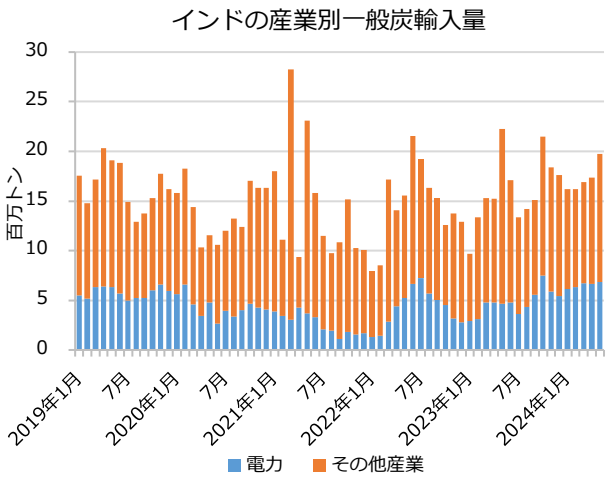
出所：インド中央電力庁



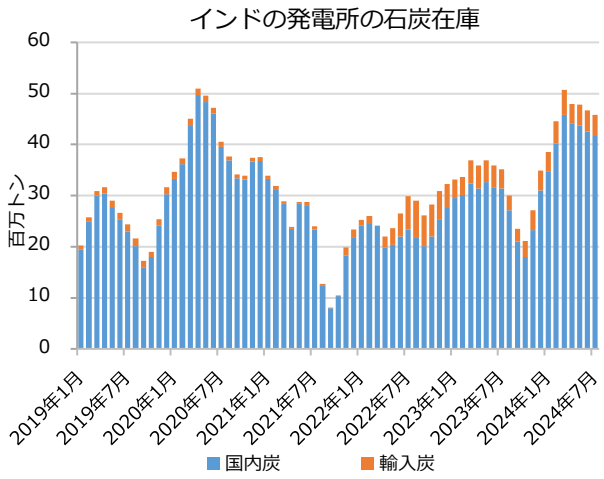
出所：Coal India Limited



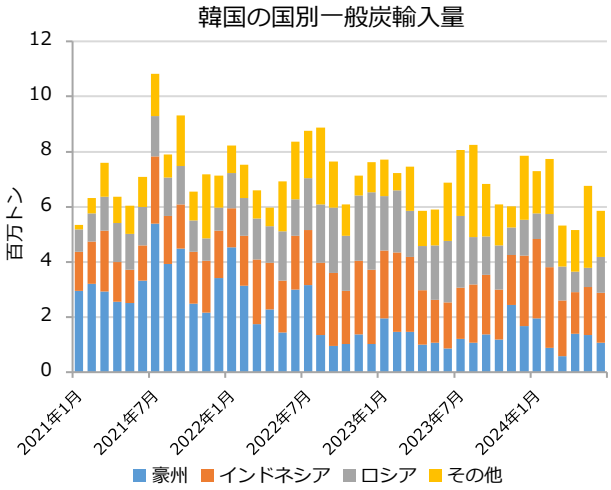
出所： Coal India Limited



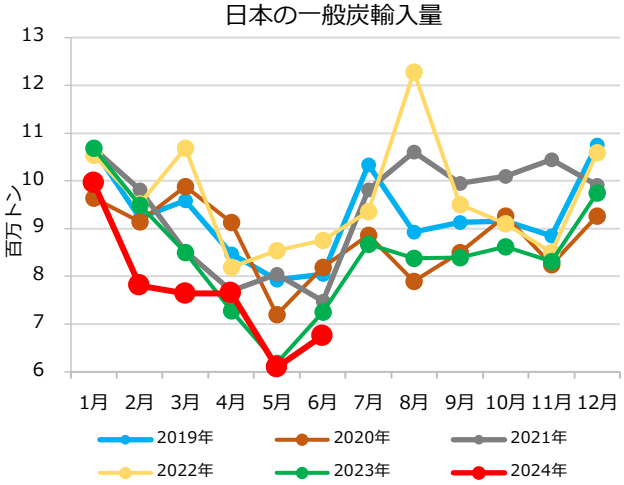
出所：インド商工省貿易統計、インド中央電力庁



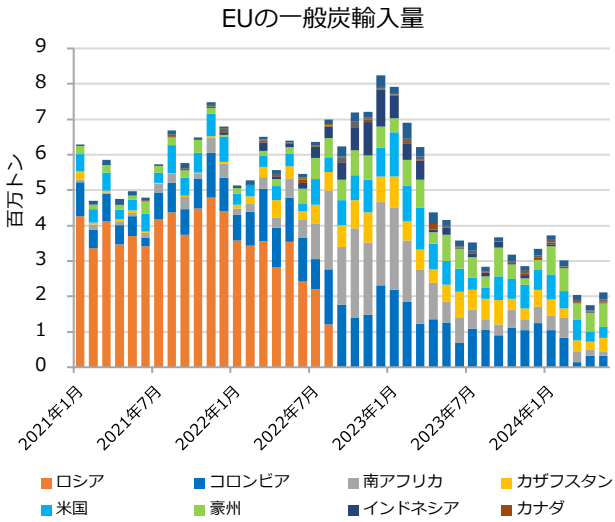
出所：インド中央電力庁



出所：韓国貿易統計



出所：財務省貿易統計

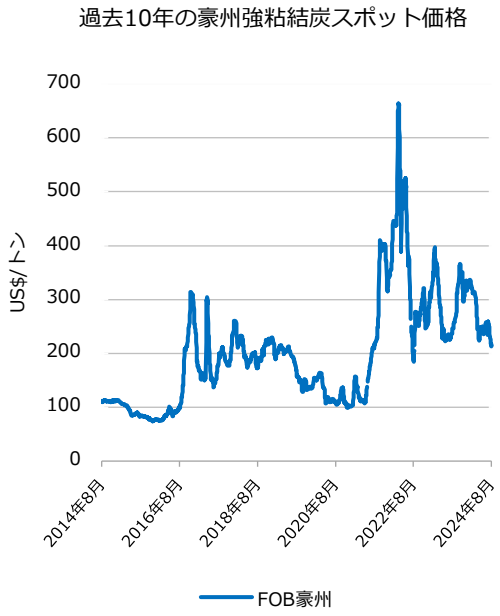


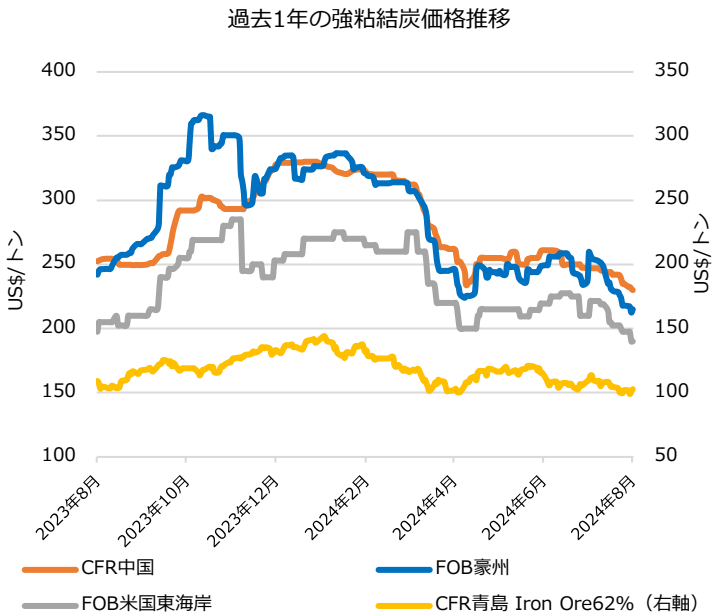
出所：欧州連合統計局（EUROSTAT）

原料炭の価格推移

強粘結炭 FOB 豪州価格は、2021 年に入りコロナ禍から経済活動が再開され鉄鋼需要が増加する中、豪州での雨期の悪天候やコロナウイルスの影響による労働力不足に起因する生産・輸送の停滞により高騰し、加えてロシアによるウクライナ侵攻により、ロシア炭の他ソース代替への動きは一般炭程強くないものの、心理的影響もあって一時的に 600$/トンを超えた（最高値：2022 年 3 月 16 日での 662.65$/トン）。その後、産炭国の天候回復及び鉄鋼需要の低迷により急落し、2022 年 8 月には約 200$/トンまで値下がりした。2022 年 12 月以降は、中国のゼロコロナ政策の撤廃による鉄鋼需要増加の期待、豪州 QLD 州北部の天候悪化、QLD 州の石炭輸送鉄道の事故等により値上がりし、2023 年 2 月下旬には 400$/トン近くまで上昇したが、豪州における天候回復や鋼材需要低迷の長期化から値下がりに転じた。現在、大局的には 2022 年のピーク時からは大きく値下がりしたものの、コロナ禍前と比べて一般炭よりも更に高値に維持されており、過去一年間の強粘結炭 FOB 豪州価格は概ね 200～350 $ / トンの範囲で変動している。

強粘結炭 FOB 豪州スポット価格の最近の動きを見ると、鉄鋼需要低迷による取引量減少を背景に 6 月上～中旬の 250$/トン超から下落基調で推移する中、6/28 に豪州 QLD 州 Grosvenor 炭鉱での坑内火災による操業停止を受けて今後の強粘結炭の供給懸念が高まり、7 月初旬に 234.0$/トンから 259.6$/トンに高騰した。その後は、当面の供給懸念が緩和されたことに加え、継続する需要低迷や潤沢な在庫水準等により下落が続き、8 月初旬時点で 220$/トンを下回り、2022 年 8 月以来の低水準になっている。このような強粘結炭 FOB 豪州価格の値動きと調和して、その他の強粘結炭（CFR 中国、FOB 米国東海岸）や CFR 中国鉄鉱石 62%も下落傾向を示している。





出所：Argus Media Limited（https://www.argusmedia.com/en）のデータを基に作成

原料炭の需給動向

豪州

・ BMA 社（BHP Mitsubishi Alliance）の 4 月に売却完了した 2 炭鉱（Blackwater 及び Daunia）を除く 2023/24 年度の石炭生産量は 3,438 万トンにとどまり、前年度から 22%の大幅な減少となった。2024/25 年度の計画も 33～38 百万トンとほぼ横ばいで、その後は 43～45 百万トンに回復するとしている。

粗鋼生産

・ 世界鉄鋼協会が発表した 6 月の世界の粗鋼生産量は、前年同月比+0.5%の 1 億 6,140 万トン。一日当たりの生産量は 538 万トンで、4 月から引き続き昨年 4 月以来の高水準を維持している。
・ 中国は前年同月比+0.2%、前月比▲1.3%の 9,161 万トン。一日当たりの生産量は 305 万トンで、一年ぶりに 300 万トン台に乗せた。
・ インドは前年同月比+6.0%、前月比+0.8%の 1,230 万トンで、平年より高い水準を維持している。一日当たりの生産量は 41 万トン。
・ 中国とインド以外の主要生産国のなかで前年実績を上回ったのは、ドイツ 320 万トン(前年同月比+8.9%)、トルコ 310 万トン(同+4.3%)、ブラジル 290 万トン(同+11.8%)。一方、日本は 700 万トン（同▲4.2%)、韓国は 510 万トン（同▲7.2%）と依然として低水準である。

中国

・ 中国鋼鉄工業協会が発表した主要鉄鋼メーカーによる 7 月の平均粗鋼日産量は、前年同月比▲5.4%、前月比▲5.1%の 209 万トンとなった。6 月までは 3 か月連続で増産基調であったが、鋼材需要低迷及び価格下落に加え夏季の不需要期を迎えて生産量が縮小した。7 月末の鋼材企業在庫は 6 月末比+9.2%、前年同期比+10.8%の 1,605 万トンと依然高い水準にある。
・ 海関総署が発表した 6 月の鋼材輸出量は 875 万トンで前年同月を 16.5%上回った。5 月下旬から下落基調の国内鋼材価格は、新型コロナウイルスの影響で経済が停滞した 2020 年前半と同水準まで低下している。鉄鋼需要の低迷により鋼材価格の下落が続く中、安値な鋼材が輸出されることで更なる世界的な鋼材市況の低迷が懸念される。
・ 中国自動車工業協会が発表した 6 月の自動車生産台数は 251 万台(前年同月比▲2.1%、前月比+5.7%)、国内販売台数は 207 万台（同▲7.7%、+5.6%）で、前月から改善したものの前年同月比はいずれもマイナスになった一方で、輸出台数は前年同月比+26.9%、前月比 0.8%の 49 万台。内需は精彩を欠いているが外需は堅調である。

日本

・ 世界鉄鋼協会が発表した日本における 6 月の粗鋼生産量は、昨年同月比▲4.2%、前月比▲2.8%の 700 万トンとなり、4 か月連続で前年同月を下回った。一日当たりの生産量は 23.3 万トン。
・ 財務省貿易統計によると、6 月の原料炭輸入量は昨年同月比▲23.0%の 413 万トン、1～6 月累計では前年同期比▲5.7%の 2,964 万トンと大幅に減少した。粗鋼生産の需要低迷を背景に、いずれも過去 10 年間の同期比で最低水準となった。主な輸入先は、豪州 189 万トン（構成比 45.8%)、インドネシア 109 万トン（同 26.3%)、カナダ 52 万トン（同 12.6%)、米国 33 万トン（同 8.0%)、コロンビア 21 万トン（同 5.0%）の順となった。6 月の強粘結炭の平均輸入単価は 44,600 円/トン(285$/トン)で、前

月から約 1,500 円/トン値下がりした。

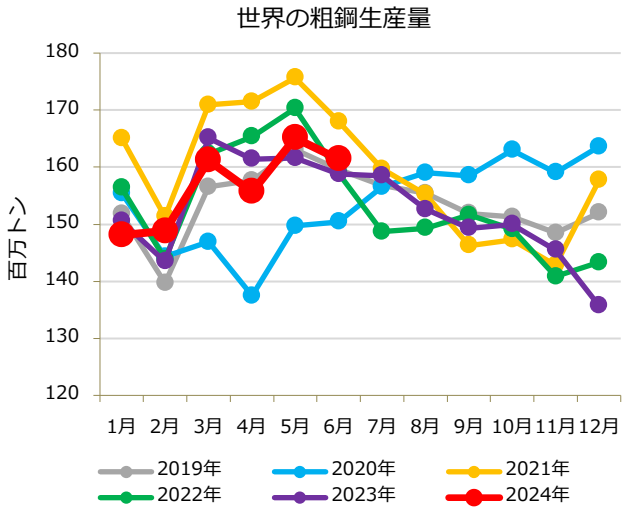
インド

・ インド商工省貿易統計によると、5 月の原料炭輸入量は前年同月比▲2.0%、前月比+1.6%の 527 万トン。輸入量の伸び率は鈍化しているものの、高水準を維持する粗鋼生産量に牽引されている。これまで輸入量の 5～6 割を占めていた豪州炭は、前月比▲23.4%の 189 万トン（構成比 36%）と大幅に減少した一方で、米国からの輸入量が前月比+66.2%の 102 万トン（構成比 19%）に激増した。先月 97 万トンに大幅増加したロシア炭は、2023 年後半と同水準の 43 万トン（構成比 8%）に落ち着いた。

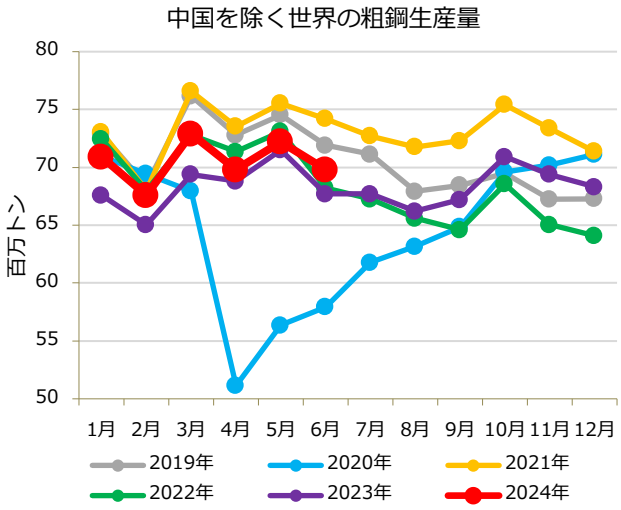
ＥＵ

・ 鉄鋼需要の低迷により原料炭輸入量が減少傾向にある中、欧州連合統計局の発表による 5 月の欧州域外からの原料炭輸入量は昨年同月比▲23.8%、前月比▲16.1%の 242 万トンに減少した。2022 年のロシア炭禁輸以降、米国と豪州で全体輸入量の 8～9 割を占めている。

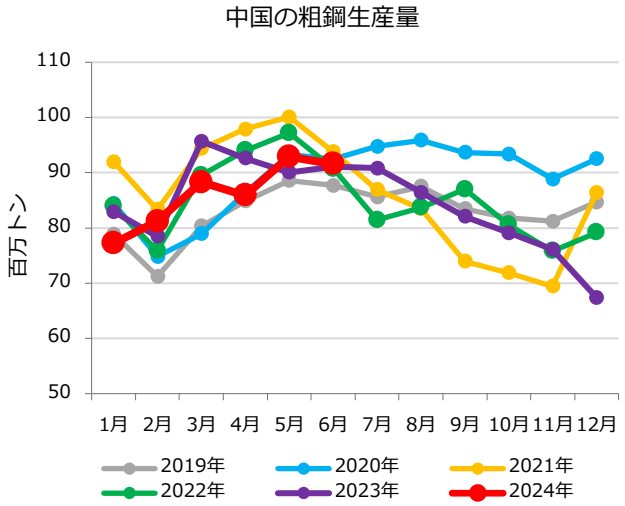
・ 欧州鉄鋼連盟（EUROFER）は、2024 年の鉄鋼消費量について不確実性が高いとしながらも前年より 3.2%回復するとの見通しを示している。前述のとおりドイツでの 6 月の粗鋼生産量は前年比で 8.9%増加していることから、今年後半の欧州域内での鉄鋼需要と原料炭輸入量の推移が注目される。



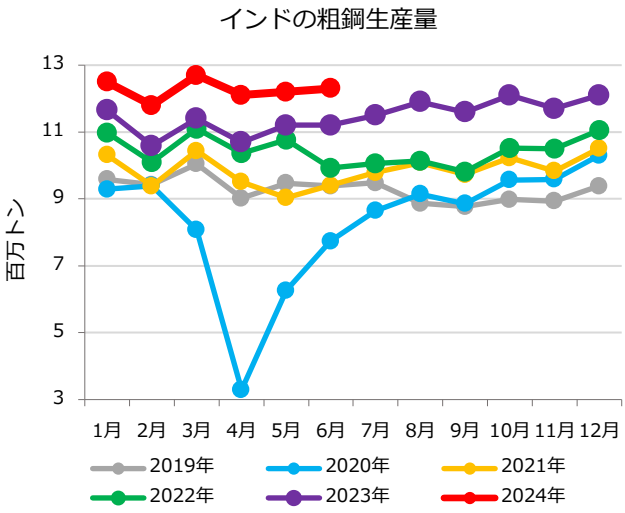
出所：世界鉄鋼協会



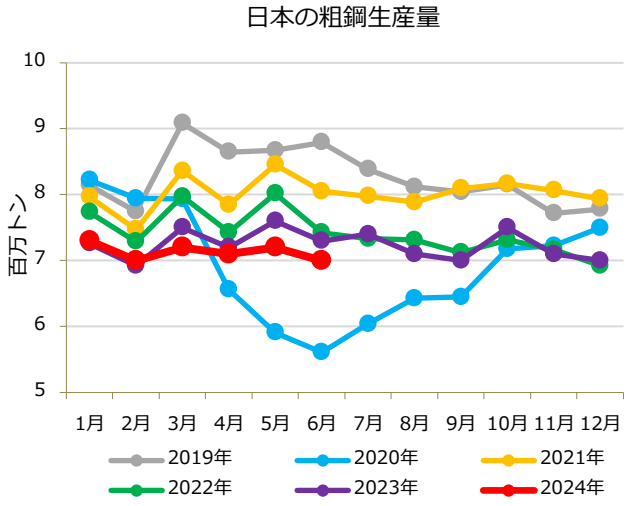
出所：世界鉄鋼協会



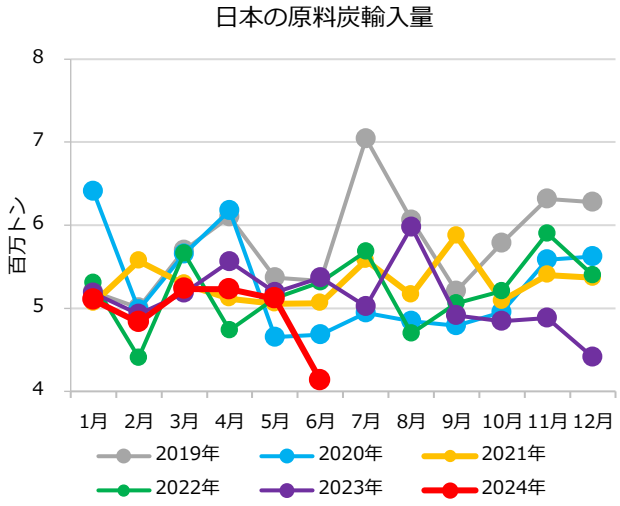
出所：世界鉄鋼協会



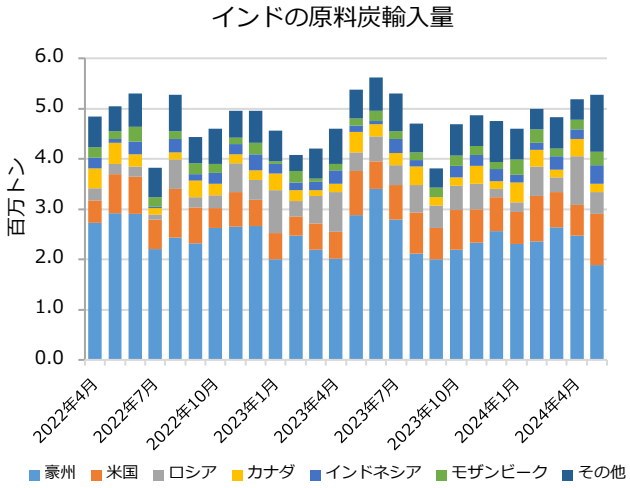
出所：世界鉄鋼協会



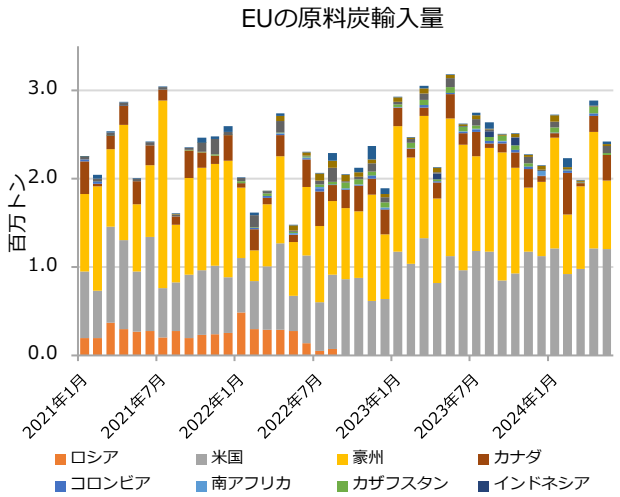
出所：世界鉄鋼協会



出所：財務省貿易統計



出所：インド商工省貿易統計



出所：欧州連合統計局（EUROSTAT）

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料を引用等する場合には、あらかじめ独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構から許可を受けてください。